
善良不良 サンタクロースの一刻

光沢を持つこんにやく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

善良不良 サンタクロースの一刻

【Nコード】

N8122Z

【作者名】

光沢を持つこんにやく

【あらすじ】

サンタクロース。それは必ずしも簡単な仕事ではない。

サンタクロース、それは世界中の子ども達に夢を配る素敵な老人。喜びの象徴であり、憎悪が嫉妬するものである。

そして憎悪を象徴する悪魔は、いつの日からかサンタクロースの命を狙い始める。

偉大なるサンタクロースの命を守らんと、それに呼応し、天使たちも動く。

しかし、あくまで天使たちは防衛しか行わない。

自らの領土へサンタクロースを非難させ、大人数の天使を、クリスマスに人間界に向かわせた。

サンタクロースの代理として。

「かつたるい」

突拍子もなく、男が口にする。短い茶髪を強引にかき上げ、舌打ちを1つする。

そんな男を、赤髪の女がなだめる。

ここだけ切り出せば、本日12月24日、なんやかんやで仲のいいカップルに見えることだろう。

しかし、時刻は深夜。屋根の上。2人ともサンタクロースの衣装。

これらの条件を追加してみたらどうだろうか？

状況は一変、よくても酔っ払いにしか見えないだろう。

だが、彼らこそサントクロース代理の天使。望んでこの仕事に就いた女天使と、それとは真逆の男天使だ。

「だって俺この仕事したいわけじゃないし……」

「だからって」

女はかなり真面目なタイプの性格だ。現に嫌々ながら仕事はしている男、しかしその気構えが気に入らないのだろう。この口論は今宵だけでもう7回目となり、やはりそのどれもが、気の抜けた男を女が正すところから始まっている。

「あゝ、もう分かったよ。ちゃんとやりまゝす」

「またそうやってふざける！」

頬を膨らませ、わざとらしく怒っていますよオーラを醸し出す女、逃げるように煙突からプレゼントを配りにいく男。些か不安ではあるが、それでも夢を与える2人は、どこか微笑ましい。

が、次の瞬間。

ピリリと自分の頬を刺すような感覚に、男は身構えた。夜、昼に比べ、はるかに肥大化した影の一部が揺らめく。

「くっ！」

一瞬、確かに凄まじいスピードで男の頭上を影でできた細長い何かが、通過していった。

男がのんきに欠伸でもして、屈むという行為を行わなければ、今頃首と体が別々になってしまっていたかもしれない。

「悪魔！ まさかこんなときに」

女が叫ぶ。そう、この影でできた何かとは悪魔。サンタクロースを狙い、代理を始末することでオリジナルを引っ張り出そうとするために、彼らもまた、12月24日の夜に、人間界を訪れる。

男は自らの纏うコートの中から、銃を取り出す。無骨な、殺しの道具。

天使が使うには些か、夢がないものだが、天使ゆえに使い方は間違えない。

過ちは犯さない。

決して人には向けない、正義の銃。

男はその引き金を容赦なく目の前の影へと、向ける。

乱射、乱射、乱射。

子供の夢を壊すサンタか。しかしこれこそサンタクロース。

悪魔を放置すれば、恐らく人間にも危害を加える。

男は今、自覚こそないがそれを未然に防ごうとしている。

夢を配る英雄と、正義の味方の英雄のハイブリッド、逃げ惑う女をよそに、悪魔の攻撃を避けながら、銃を乱射する。

右足を影の槍が貫かんとする、それをバックステップで回避すると、手のひらから直に生やしたショットガンの銃口を悪魔へと向ける。

余りの衝撃に、天使の彼さえも大きく後ろに仰け反るが、その分悪魔へのダメージも大きかったらしい。

影が無数の腕を空に向けて振りながら、攻撃をやめた。恐らくは、ダメージに怯んだのだろう。

今がチャンス　そう判断した男は、腰から出現させたナイフを悪魔目掛けて投げつけた。

一投必中！

ナイフは見事に影が人を象った、丁度その頭部を捉え、絶命させた。

「おしまい、か、齒ごたえがないな」

立体を失い、ドロドロと影のなかへと、まるで溶けるように倒れていく悪魔を見据えて、男はそう吐き捨てた。

サンタクロースには不適に。

天使にしては些か汚く。

「じいん」

ふと、男の傍らで今まで振るえていた女が呟く。

「あ？」

男はその発言に正直、少々不快を覚えた。自分では何もしないくせに、文句をいう。誰だって嫌いなタイプだ。

「じゃあ聞くが、お前のこれは飾りか？」

男は少し怒気を込めて、女の懷に収まった、リボルバー式の拳銃を指差した。

悪魔と対峙する以上、全サントクロースに支給される対魔銃。彼女も確かに持っていた。

「ああ、いえ、すいません。別に馬鹿にしたりしたわけじゃないんです」

すると、その怒気が女にも伝わったのだろう。彼女とて、自らの発言を振り返り、反省することの出来る年齢だ。

先の発言が、男に誤解されたことを察し、素直に謝罪する。

「ただ少し、無茶する方だなあ、と」

「ほっとけ」

素直な謝罪をされれば、男とてそれ以上追求することも出来ない。

「第一俺の戦い方なんか神殿で一回みてるだろ」とぼやき、バツが悪そうに煙突から室内に入っていく。

「でも、新鮮です」

と女

「うるせえって」

と男

今宵この時クリスマス。サンタクロースは、過激に、されど優しく素直に元気よく、プレゼントを配っているのかもしれない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8122z/>

善良不良 サンタクロースの一刻

2011年12月25日22時54分発行